



## 新たな学術交流協定



### マレーシア国民大学(マレーシア)と大学間学術交流協定を締結

本学は、2016年9月21日、マレーシア国民大学と大学間学術交流協定を締結しました。これにより、本学の大学間学術交流協定は、合計17か国46大学1機関となりました。(2017年2月1日現在)

#### マレーシア国民大学(UKM)

【学生数】約27,000名

【特色】マレーシアを代表する五つの研究大学の一つである。創立以来、研究や国際レベルでのアカデミックなプログラムへの関与による実績等が内外から高い評価を得ており、様々な大学ランキングで常に国内最上位に位置しているほか、QSアジア大学ランキングでは55位(2015年)に位置している。

【本学との交流状況】2014年1月に工学部がマレーシア国民大学理工学部と部局間学術交流協定を締結し、学生・研究者の交流を進めてきました。今回、大学間学術交流協定となり全学的に交流を推進します。



### 医学部がハワイ大学(米国)、工学部が東ティモール国立大学(東ティモール)などと5大学と部局間学術交流協定を締結

本学は、以下の大学と部局間学術交流協定を締結しました。これにより、本学の部局間学術交流協定は、合計22か国45大学・機関となりました。(2017年2月1日現在)

#### 【工学部】2大学

ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)  
東ティモール国立大学 工学部(東ティモール)

#### 【医学部】1大学

ハワイ大学 医学部(米国)

#### 【応用生物科学部】1大学

ラジシャヒ大学 農学部(バングラデシュ)

#### 【医学部・保健管理センター】1大学

南フロリダ大学 医学学群(米国)



ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)



東ティモール国立大学(東ティモール)



ハワイ大学(米国)



ラジシャヒ大学(バングラデシュ)



南フロリダ大学(米国)

## 第2回ウィンタースクール

ウィンタースクールプログラムは、インド工科大学グワハティ校 (IITG) 及びマレーシア国民大学 (UKM) との国際協働教育の連携活性化を視野にいた、本学への留学誘導プログラムです。第2回も、各校10倍以上の倍率の中から選ばれた学生8名が、2016年12月5日から約3週間、本学で研究室体験や本学教員による特別セミナー、日本語研修、日本文化体験、地域企業訪問等を行いました。

本プログラムでは、IITG及びUKMから教員を招へいし、本学・IITG・UKMの学生が混在したシチュエーションでの各大学教員による模擬講義を実施する等、今後の協働教育に向けた取り組みも行っていきます。また、グローバル(グローバル+ローカル)人材の育成に向けて、地域の日本企業の見学も取り入れています。日本企業に対する理解を深めることで、進学後の日本でのキャリア形成もイメージできるようなプログラムになるよう、今後も運営していく予定です。



## 📷 スペシャル イングリッシュ・ラウンジ (11月7日、21日)

イングリッシュ・ラウンジは英語でのコミュニケーションを図る場として原則毎月2回実施されていますが、11月は2回にわたり、秋の国際月間のスペシャル企画として“Invitation to Summer School Program at Northern Kentucky University”と題し、今年度8月から9月の約3週間、本学の大学間学術交流協定大学であるノーザンケンタッキー大学主催のサマースクールプログラムに参加した、教育学部1年の学生8名が発表を行いました。

学生らはそれぞれ、ノーザンケンタッキー大学の紹介や、出会った人々、驚いたこと、アメリカに対する印象の変化など、様々なトピックについて工夫を凝らした発表を行い、のべ約80名の参加者は熱心に耳を傾けていました。その後の質疑応答も活発に行われ、発表者は目的を持って留学することや積極的に勉強することの大切さなどを伝えたのに対し、参加者からは本学の学生が英語を駆使し海外でチャレンジしたことを知り刺激を受けたという意見があり、発表者・参加者にとって文字通りスペシャルな企画となりました。



## 📷 地元企業との交流会(11月9日)

今回で5回目となる地元企業との交流会が、岐阜信用金庫との共催で開かれました。今年度は岐阜県内の製造業や輸出入業など幅広い業種から15社が参加し、留学生および日本人学生合わせて約60名が参加しました。

最初に、各企業からの事業内容や自社製品に関するプレゼンテーションがあり、参加学生は真剣に耳を傾けていました。今年度は日本語だけでなく英語で自社紹介を行った企業もありました。その後の懇親会では、参加学生は各自関心のある企業の担当者から、業務内容や海外展開の状況等の話を聞いたり、熱心に質問をすることで、地元企業についての理解を深めました。



## 📷 ポットラックパーティー (11月25日)

ポットラックパーティーとは、留学生・学生・教職員とその家族らがそれぞれ食べ物を持ち寄って行うパーティーのことで、英語でのコミュニケーションを通じて、世界各国の食文化を知る良い機会となっています。

今回は、中国、インド、インドネシア等からの伝統料理やデザートが集まったほか、日本の家庭料理も振る舞われ、約20名の参加者が楽しく交流を行いました。

グループを変えながら自己紹介を行い、歓談の間にはグループに分かれてクイズゲームを行いました。ゲームを通して参加者同士でふれ合う事で、それぞれの絆を深めることができました。



## 📷 外国人留学生交流フォーラム ～グローバルな岐阜県企業に学ぶ～(11月30日)

十六銀行との共催で、岐阜県下の企業2社が参加し、各企業の特色や国内外での活躍を多く紹介するとともに、岐阜県企業の優れた点・成長性を知ってもらうために、企業と学生の交流の場として今年で2回目となるフォーラムを開催しました。フォーラムには留学生を含む学生約20名の出席があり、パネルディスカッションでは企業が求める人材や採用のポイントについて討論されました。

また、今回初めての試みとして座談会が行われ、学生は企業が実際に取り扱っている製品を手に取りながら、事業や製品について詳しく説明を受け、また企業の方に積極的に質問をしていました。



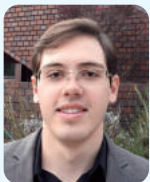


## 外国人留学生及び外国人研究者等との学長主催懇談会(11月8日)

本懇談会は、森脇学長をはじめとする役員、部局長等と外国人留学生及び外国人研究者並びにその家族等が一堂に会し、親睦を図ることを目的としており、今年度で3度目の開催となります。

今回は余興として、国別に構成された学生グループ計7チームが、それぞれの出身国にちなんだパフォーマンスを披露しました。インドネシアの学生達はギターと伝統楽器の伴奏に合わせた歌、中国の学生はスロート・シンギングと呼ばれるモンゴルの伝統的歌唱法、岐阜大学剣道部からは剣道の説明と実演、ベトナムの学生達はギターによる弾き語り、ウクライナの学生は自国で流行している歌、タイの学生達は故国王を称える映像と歌、日本人学生及び本学職員から成るグループは日本の伝統楽器である箏と尺八の演奏を披露しました。参加者は、各国の音楽が醸し出す独特な雰囲気や音色、迫力ある武道の技に熱心に見入っていました。

今回の懇談会には、昨年度を大幅に上回る約180名の参加があり、大盛況の内に閉会となりました。



### 外国人留学生からのメッセージ

「なりたい自分になろうと、丹精すべき」

工学部研究生 ズロビン ウラディスラフ (ZLOBIN VLADYSLAV)



私にとって日本に来ることは長年の夢でした。しかし、観光客としてではなく、留学生として日本に来ることは想定外でした。来日したばかりの頃は不慣れで至らない点があまにも多く、当初は自分のことを浦島太郎のように感じていました。日本に来る前に予め必要な常識などを身につけておこうと努めましたが、それでも実際の日常生活では失礼にならないよう十分に注意しなければいけませんでした。岐阜市に来てから3か月が経過しますが、既に慣れてきた気がしています。

残念ながら、私の住んでいたウクライナの地域は占拠されており、経済状況が急激に悪化し、失業率も非常に高くなりました。それでも私の母国であるウクライナの国内情勢が少しずつ安定するという希望を持っています。

当然ですが、今の段階では私にとって最優先事項は勉強に専念することです。元々経済学を主専攻としていた私にとって熱力学など理系科学は少し難しいなと思いつつも、万難を排し、挑戦することにしました。今の私は多くの若者たちと同様に、不安定な未来に対する違和感や焦燥感を抱えています。しかし、ウクライナに比べると、日本には自己啓発のチャンスが沢山あると思います。

岐阜市に来て初めて茶道に強い興味を持ちました。お抹茶を点てる亭主の優雅な動作に魅せられ、茶道部に入ることにしました。最初は茶筌をきちんと使うことさえ至難の業でしたが、先生のお陰で徐々に上達しています。茶道を通して感性が磨かれ、所作が淑やかになるといいなと思います。

岐阜市の自然に恵まれた環境に魅了されています。見渡す限り一面山々に囲まれ、清流の川や古代歴史を感じさせる古民家もあります。閑静な住宅街を散歩するだけで気分が明るくなります。岐阜大学を卒業して、就職し、岐阜市のような都市に永住しようと思っています。

周りの皆さんは自分の夢を叶えようと、一所懸命努力を重ねています。私も皆さんに負けないように、勉強や茶道の稽古などにより一層励んで、頑張っていきたいです。そして、これからなりたい自分になるために全身全霊を傾け、精進し続けるつもりです。





## 海外留学中の学生からのメッセージ

### 「大好きになった『ほほえみの国』」



教育学部 特別支援学校教員養成課程 野田 侑希

2016年8月にタイに来て約半年が経ちました。今までの半年間を振り返ると、タイに留学に来られて本当に良かったと感じています。カセサート大学を含め、タイの大学に交換留学生として岐阜大学から学びに行くのは私が初めてでしたし、私自身海外には行ったことがありますが、タイに行くのはこの留学が初めてでした。行くまでは治安や言語等、不安でした。タイに来てすぐはタイ語も全く分からず、英語もタイ人は（日本人もそうですが）独特な発音をするため聞き取れない、伝わらないということがありました。しかしタイは『ほほえみの国』とも言われているように、困っていることがあるとすぐに助けてくれます。また何か失敗したり、助けてもらったりしたときも微笑んで「マイベン

ライ（大丈夫だよ）」とってくれます。このような優しく温かい国民性こそがタイに留学に来られて良かったと感じた一番の理由です。

さて、カセサート大学には様々な学部があり、留学生は主にタイ語専攻学科や英語に特化したプログラムに所属しますが私は教育学部に所属することになりました。しかし、カセサート大学の教育学部にはタイ語の講義しかないため、タイ語ができない私に特別にスケジュールを組んでいただき、様々な学外でのプログラムや大学主催のタイ人学生との旅行、毎週3時間のマンツーマンでのタイ語のレッスン等を受けさせていただくことができました。先生方も優しく教えてくださり、タイ人の友達も沢山できて一緒に遊びに行ったり、勉強したりして話しているうちに徐々にタイ語で会話も少しずつできるようになってきました。マンツーマンのレッスンの他にも、タイ語専攻学科の講義も受講させていただき、読み書きはそこで勉強しています。まだ読み書きが全くできなかった頃は、学食でもレストランでもメニューがタイ語なので注文すらできず、とても悔しくて自分で講義以外にもタイ語の勉強を始めました。そして徐々に分かるようになり、自分の食べたいもの、欲しいものが伝えられるようになると生活がよくなりました。何より、「分かる!」「分かってもらえた!」という嬉しさを感じられます。逆に落ち着いて考え直したら分かるようなことも急に話しかけられて答えられないと悔しくなり、もっと頑張らなきゃと思います。このような嬉しさや悔しさは、実際にタイ語を話さなければいけない状況にならなければ感じられないので、残りの時間も積極的にイベントや友達と交流して有意義な時間にしたいです。また、帰国後は私がタイで助けてもらったように私も日本で困っている外国人を見たら助けたいと思います。これは自分自身が「外国人」を経験しなければ感じられないことだと思います。ここには書ききれない程の様々な体験ができ、本当に留学させていただけたことに感謝しています。



## 海外留学中の学生からのメッセージ

### 「伝えるということ」



連合獣医学研究科 獣医学専攻 永野 宏

私は「トビタテ!留学 JAPAN」に採択され、現在アメリカ・ニューオリンズで視床下部ニューロンの研究をしています。現地での生活も4か月が過ぎ、これまで何を学んだかを振り返りつつ、残りの期間をどう工夫して過ごすべきかを考える時期となりました。ここでは、これまでの生活で学んだ考え方とそのエピソードについて伝えたいと思います。

ある日、ネイティブの友人とレストランに食事に行ったとき、些細なトラブルがありました。私たちのテーブルを担当する女性が一向に注文を聞きに来ず、見てみると彼女は同僚との談笑に夢中でこっちを全く見ていません。そこで私が他の店員を呼ぼうとするも友人はそれを制止し、自分で席を立てて注文を伝えにいったのです。会計の際には彼はマネージャーを呼び、「このテーブルにチップは払えない。なぜなら彼女は注文もとらず談笑していたからだ。」とゆっくり諭すように告げ、店を後にしました。帰りの道中で、なぜ他の店員を呼ばなかったのか尋ねると彼は「他の店員に告げたとこで彼女の態度が改善されるわけじゃない。だからマネージャーに伝えただ。君はどう思う?」と言いました。「その行動には賛成だけど僕はきっとそこまで言えないだろう。」と私が答えると、「なぜそこで我慢する必要があるんだ?自分の考えをなぜ伝えない?」と彼は臍に落ちない様子でした。その言葉に私ははっと気付かされたことがありました。これまで何度か研究のこと

で先生と議論した際、私が論文を引き合いに出して仮説を述べると、「君はその著者と全く同じ意見なのか。君自身はどう考えているんだ。」と私自身の意見を求められたことがあったのです。これまで私は周りを気遣うことのできる、いわゆる“空気の読める人”になろうと心がけていました。その一方で、自分の意見を殺して周りに同調するようになっていたのかもしれない。多数の民族が共存しているアメリカでは、自分の考えを抑圧する必要はないし、周りにわざわざ同調する必要もない。大切なのは、自分の意思表示を明確に行い、相手の異なる意見も一つの考え方として受け入れること。これがこれまでの留学生活で私が学んだことのひとつです。そしてこの理解を、残りの留学生活における更なる学びに繋げていきたいと思っています。



## 📷 ハローギフ・ハローワールド2016(7月10日)

岐阜県国際交流団体協議会と(公財)岐阜県国際交流センターによる国際交流イベント「ハローギフ・ハローワールド2016」が開催され、本学からインドネシア人留学生が参加しました。留学生は、会場内に設置されたブースで民芸品などを展示して訪れた人々と交流しました。また、ステージでは、色鮮やかな衣装で伝統的な歌やダンスを披露し観客を魅了しました。留学生も多くの人が母国の文化に興味を持ってくれたことを喜んでいました。



## 📷 和太鼓・箏体験(12月3日)

国際ソロプチミスト岐阜主催の「和太鼓・箏の体験」が岐阜県立総合学園高等学校で行われ、留学生約30名が招かれました。同高等学校の訪問は、今年度で3回目となります。留学生は、最初に高校生による落ち着いた音色の箏の演奏と、迫力のある和太鼓の演奏を聴きました。その後、太鼓のたたき方を習い、曲に合わせて演奏し、日本の伝統芸能について理解を深めました。また、高校生と留学生がそれぞれ互いの国の紹介をしたり、ゲームやダンスをして交流を行い友好的な輪を広げました。

## 📷 茶道体験(12月10日)

岐阜南ライオンズクラブ主催の「日本の伝統文化を体験する会」が岐阜市の伊奈波神社で行われ、留学生約30名が招かれました。留学生は、講師からお茶の点て方や出し方などの作法を手ほどきしてもらい、実際にお点前を体験しながら茶道の心得を学びました。留学生からは「貴重な体験ができた」等の感想があり好評でした。

また、お昼には老舗日本料理店で和食を味わいながら、参加者同士で楽しく交流を行いました。



(2016年12月31日現在)

	件数	人数
幼稚園	9	34
小・中学校	3	8
高校	3	7
地域交流	21	257
合計	36	306

## 📷 留学生派遣状況

本学は、岐阜県、岐阜市および県内外の国際交流団体等と連携し、様々な国際交流活動を行っています。このような活動の一環として、本学の留学生が様々な行事に参加し、地域との交流を深め、日本の文化を学んでいます。また、派遣先の学校などでは、留学生が母国の文化(歌・衣装・食べ物など)を紹介して、母国の魅力を伝えています。

なお、2016年4月から12月までの派遣状況は左記のとおりです。

## 📷 岐阜県との連携

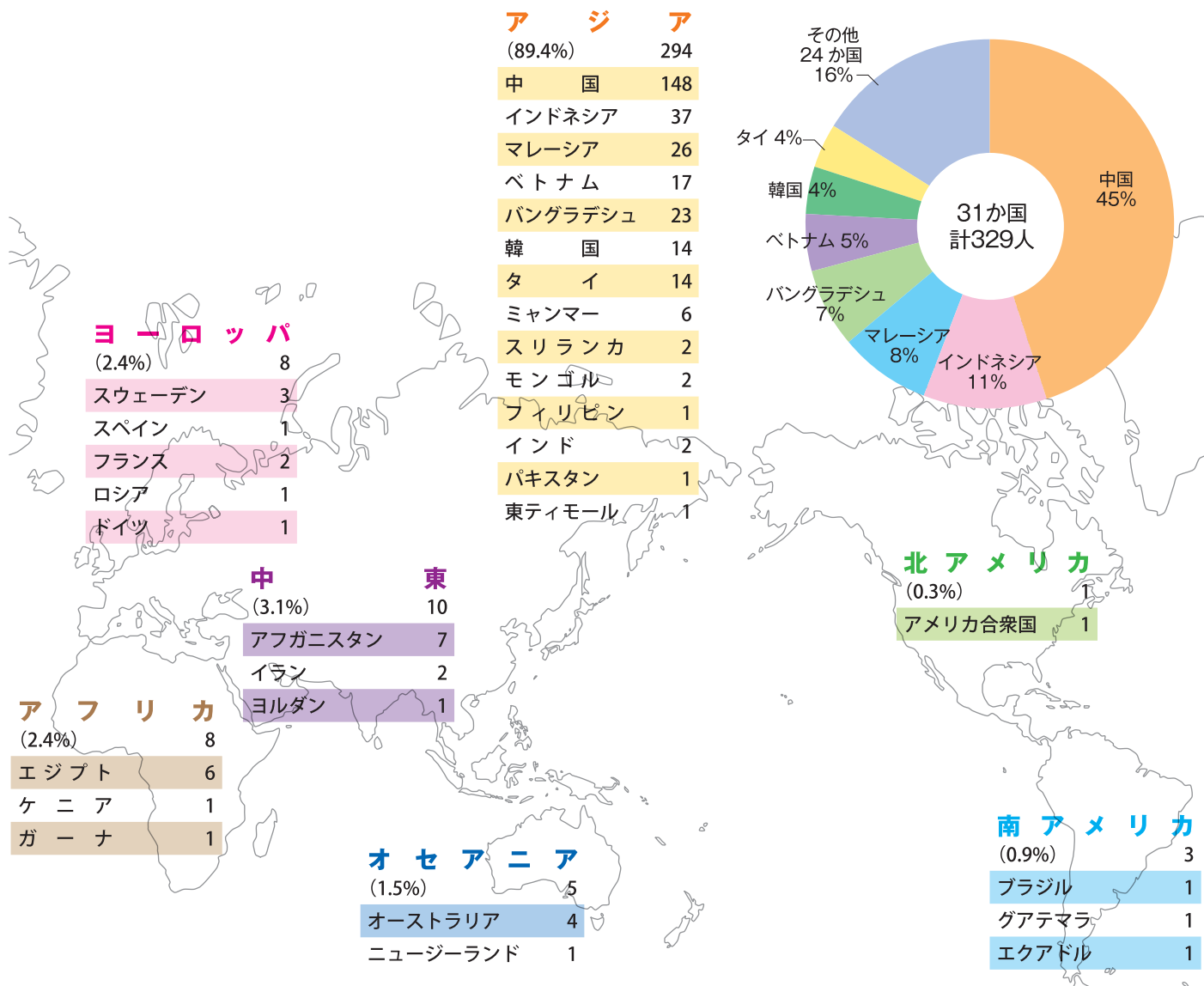
本学は、岐阜地域留学生交流推進協議会(岐留協)を通じて、岐阜県、県内大学等、企業、経済団体等が連携して実施する事業に参画しています。2016年度には、県内の留学生を対象に岐阜県が開催した就職支援のためのセミナーおよびインターンシップ等に本学の留学生が参加しました。

7月に開催された「外国人留学生就職セミナー」には約20名の留学生が参加し、日本で就職するために必要な日本企業文化を理解するために、世界でも独特な就職活動の形式や、働く上で必要なコミュニケーション能力等の説明を受けました。

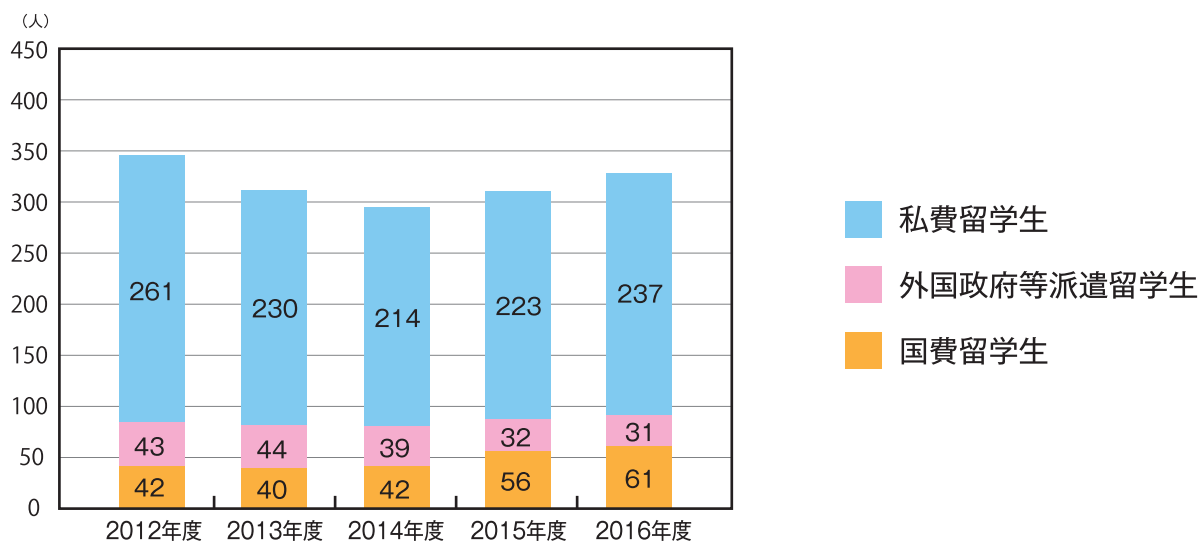
また、県内企業における留学生の雇用拡大に向けて、企業と留学生の相互理解促進を図ることを目的に8月末から約1週間実施された「留学生インターンシップ in GIFU」には、留学生7名(中国4名、ベトナム2名、韓国1名)が参加し、県内企業でインターンシップを行いました。その後12月に開催された成果報告会では、参加留学生がインターンシップ先での体験を報告しました。



国(地域)別外国人留学生数 (2016年5月1日現在)(人)



外国人留学生受け入れ数の推移



大学間協定 (17か国 46大学 1機関)

機関名	国名	協定締結日
カンピーナス大学	ブラジル	1984. 8.27
サンディエゴ州立大学	米国	1985. 5. 7
浙江大学	中国	1986. 4.21
広西大学	中国	1986. 4.24
電子科技大学	中国	1986. 7.21
江南大学	中国	1986. 9. 3
中国医科大学	中国	1987. 8.15
ルンド大学	スウェーデン	1987. 9.12
ノーザンケンタッキー大学	米国	1990. 9.26
ソウル科学技術大学校	韓国	1992. 3.19
グリフィス大学	オーストラリア	1995. 3. 3
ユタ大学	米国	1997. 5.28
ユタ州立大学	米国	1997. 5.29
ハノイ工科大学	ベトナム	1998. 6.26
ウェストバージニア大学	米国	1998.12.16
カセサート大学	タイ	1999. 8. 5
内蒙古農業大学	中国	2000. 8. 8
シドニー工科大学	オーストラリア	2000. 8.14
バンノン大学	ハンガリー	2001. 3. 2
アンダラス大学	インドネシア	2001. 4.23
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001. 8.23
エルフルト大学	ドイツ	2002.12. 4
吉林大学	中国	2003. 5.20
チェンマイ大学	タイ	2003. 8. 4

機関名	国名	協定締結日
ダッカ大学	バングラデシュ	2004. 6.17
モンクット王トンプリ工科大学	タイ	2005. 1.10
華僑大学	中国	2005. 3.29
同済大学	中国	2006. 3.16
ランボン大学	インドネシア	2006. 4.25
内蒙古大学	中国	2007. 2. 6
木浦大学校	韓国	2008. 2.26
シバジ大学	インド	2008. 3.18
バイロイト大学	ドイツ	2008. 8.22
西南交通大学	中国	2008. 9. 5
ベンハー大学	エジプト	2009. 3.18
高麗大学校	韓国	2010. 1.15
カウナス工科大学	リトアニア	2010. 3. 8
ボゴール農科大学	インドネシア	2010.12. 2
内蒙古師範大学	中国	2011. 6. 8
ヴィータワタス・マグヌス大学	リトアニア	2012. 1.19
ガジャマダ大学	インドネシア	2012. 9.13
シドニー大学	オーストラリア	2012.12. 5
スプラス・マレット大学	インドネシア	2013. 7. 8
バリ第11大学	フランス	2014.12.16
タイ教育省基礎教育委員会	タイ	2015. 3.10
インド工科大学グワハティ校	インド	2015. 6.23
マレーシア国民大学	マレーシア	2016. 9.21

部局間協定

機関名	国名	協定締結日	協定部局
チュラロンコン大学 理学部	タイ	1994. 3.15	応用生物科学部
コンケン大学 農学部	タイ	2000. 3.27	応用生物科学部
コンケン大学 学部間共同開発研究所	タイ	2000. 3.27	応用生物科学部
浙江大学 医学院	中国	2000.12. 4	医学部
コンケン大学 医学部	タイ	2000.12.18	医学部
国立全南大学校 工学部	韓国	2002. 2. 6	工学部
中国科学院 水利部水土保持研究所	中国	2008. 8.12	インフラマネジメント技術研究センター
国立獣医科学検疫院 獣医科学研究所	韓国	2008.11. 4	応用生物科学部
忠北大学校 医学部	韓国	2009. 4.17	医学系研究科・医学部
中国水利水電科学研究院 岩土工程研究所	中国	2009. 7.24	インフラマネジメント技術研究センター
カフル・エル・シエイク大学 獣医学部	エジプト	2009.11.15	連合創薬医療情報研究科
柳韓大学校 工学系列	韓国	2010. 9.29	工学部
アルバータ大学 理学部	カナダ	2011. 6.30	応用生物科学部
ベンガル大学 数学自然科学部	インドネシア	2011. 7.20	工学部
アッサム大学 生命科学部	インド	2012. 7.19	連合農学研究科
サー・バラシュラム・カレッジ	インド	2012. 9.17	工学部
モンゴル国立大学 地理地質学部	モンゴル	2012.10.29	応用生物科学部
チュラロンコン大学 理学部	タイ	2012.12. 6	連合農学研究科
忠南大学校 工学部	韓国	2013. 1.18	工学部
マドリッド・カルロス三世大学 工学部	スペイン	2013. 7. 9	工学部
EMC2 クラスタ・IRTジュール・ヴェルヌ	フランス	2014. 3.13	複合材料研究センター
ドルトムント工科大学 機械工学部	ドイツ	2014. 6.23	工学部
マンダレー大学 自然科学部	ミャンマー	2014. 8.25	工学部
ブラヴィジャヤ大学 数学自然科学部	インドネシア	2014.12.16	工学部
ヤダナボン大学 自然科学部	ミャンマー	2014.12.16	工学部

機関名	国名	協定締結日	協定部局
メティラ大学 自然科学部	ミャンマー	2014.12.16	工学部
ディアンキマティ工科大学 工学部	ケニア	2014.12.16	工学部
トungkアプドゥル・ラマン大学 理工学部	マレーシア	2014.12.16	工学部
ハメ応用科学大学 バイオエコユニット	フィンランド	2015. 1.22	応用生物科学部
慶北大学校 工学部	韓国	2015. 2.27	工学部
シーナカリンウィロート大学 教育学部	タイ	2015. 3.17	教育学部
アメリカ合衆国国立衛生研究所 国立心臓血液研究所	米国	2015. 3.18	工学部
バーデン・ヴュルテンベルク州立太陽エネルギー・水素研究センター	ドイツ	2015. 3.20	工学部
アーカンソー大学フォートスミス校	米国	2015. 6. 8	地域科学部
チュイロイ大学	ベトナム	2015. 6.25	連合農学研究科
ブンハッタ大学	インドネシア	2015. 7.30	工学部
バンドン工科大学 生命科学工学部	インドネシア	2015. 8.11	連合農学研究科
ガーナ大学 基礎応用科学部	ガーナ	2015. 8.20	応用生物科学部
ガーナ大学 基礎応用科学部	ガーナ	2015. 8.20	連合獣医学研究科
パダン州立大学 数学自然科学部	インドネシア	2015. 9.18	工学部
リール第3大学	フランス	2015.10. 1	地域科学部
カールスルーエ教育大学	ドイツ	2015.10.21	教育学部
クラクフ工科大学 環境工学部	ポーランド	2015.11.30	工学部・流域園科学研究センター
チュラロンコン大学 理学部	タイ	2015.12. 2	工学部
山西師範大学	中国	2015.12. 7	教育学部
ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	2016. 4.25	工学部
ハワイ大学 医学部	米国	2016. 8.24	医学部
東ティモール国立大学 工学部	東ティモール	2016. 8.29	工学部
南フロリダ大学 医学学群	米国	2016.10.20	医学部・保健管理センター
ラジシャヒ大学 農学部	バングラデシュ	2016.12.27	応用生物科学部

## 国際交流事業協力団体 (2016年度)

一宮市国際交流協会	岐阜県立岐阜商業高等学校	株式会社十六銀行
公益財団法人井上国際交流基金	岐阜県立関高等学校	西濃学園中学校
イビデン株式会社	岐阜県立岐阜本巣特別支援学校	公益財団法人田口福寿会
公益財団法人岩谷直治記念財団	公益財団法人岐阜市国際交流協会	第一ブロック青少年育成市民会議
Eng Cosmo	岐阜市青年団OB会	中部学院大学短期大学部附属幼稚園
公益財団法人SGH財団(旧:佐川)	岐阜市長良東公民館	中部薬品株式会社
株式会社大垣共立銀行	岐阜市役所	公益財団法人朝鮮奨学会
公益財団法人大塚敏美育英奨学財団	岐阜市立長良中学校	奈良県立大学
大野柿クラブ	岐阜信用金庫	公益財団法人日本国際教育支援協会(ドコモ)
大野町かき産地協議会	岐阜地域留学生交流推進協議会	廿日市市国際交流協会
オン・セミコンダクター岐阜営業所	岐阜南ライオンズクラブ	公益財団法人服部国際奨学財団
公益財団法人岐阜観光コンベンション協会	公益信託久保田豊基金	株式会社バローホールディングス
一般財団法人岐阜県環境管理技術センター	一般財団法人国際クラブ	公益財団法人平和中島財団
公益財団法人岐阜県国際交流センター	国際交流の輪∞黒野	三菱商事株式会社
岐阜県国際交流団体協議会	国際ソロプチミスト岐阜	公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
岐阜県総合人材チャレンジセンター	NPO法人国際文化友好協会	
岐阜県庁	JEES一般奨学金	
岐阜県日本中国友好協会	株式会社真誠	

本学の国際交流事業は、以上の企業・団体からの御寄付及び御協力により運営されております。(五十音順・敬称略)

## 岐阜大学基金(国際交流事業)へのご協力をお願い

岐阜大学における国際交流を充実・発展させるために、岐阜大学基金(国際交流事業)への御寄附をお願いいたします。寄附申込書を以下のURLから入手のうえ、御寄附いただきますと、本学の国際交流事業への寄附金として取り扱われます。主な国際交流事業として、私費外国人留学生学資援助金、研究者交流助成、短期留学(派遣)奨学金及び多文化交流事業等を行っております。

### 国際交流事業のための岐阜大学基金

URL : <http://www.gifu-u.ac.jp/international/fund/message.html>

※本学への寄附金は、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金または法人税法上全額損金算入を認める指定寄附金として財務大臣から取り扱われます。

## 国際交流ニュースレターについてのご意見・ご感想をお寄せ下さい

送付先 : 岐阜大学学術国際部国際企画課 国際総務係 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1  
Email : [kokusaik@gifu-u.ac.jp](mailto:kokusaik@gifu-u.ac.jp)

編集 : 岐阜大学グローバル推進本部

事務局 学術国際部国際企画課 国際総務係(本学の国際交流全般に関すること)

■ TEL : 058-293-3351 ■ Email : [int\\_exch@gifu-u.ac.jp](mailto:int_exch@gifu-u.ac.jp)

学術国際部国際企画課 留学生支援係(留学生に関すること)

■ TEL : 058-293-2137 ■ Email : [direcent@gifu-u.ac.jp](mailto:direcent@gifu-u.ac.jp)

本誌は岐阜大学公式Webページ上で公開しています。

岐阜大学国際交流ニュースレター

URL : <http://www.gifu-u.ac.jp/international/newsletter/Newsletter.html>